

蓮のうてなの御詠歌

松 濤 基 作 曲
菊 地 謙 雄 振 付

準備

1. 鈴と撞木を保持して舞う
2. 正規の型で鈴と撞木をおき正座する

唱え奉る 蓮のうてなの

正座のまま静かに合掌

御詠歌

両手同時に鈴と撞木をとりいただいて静かに立つ

に

右手撞木を右 横 上をとおり、構える

歌

手

足

(半拍休)
さ
き
|

撞木で鈴の駒の爪を一つ打つ

右足一步斜右前に出し(右膝少し屈げて)

撞木を正規の位置に戻す

左足を右足に揃えたと同時に両踵をあげる

だ
た
|

鈴を一つ振り鳴らす

両踵をおろす

そのまま静止

ば
|

鈴、撞木は前の動作と同じ

左足一步斜左前に出し(左膝少し屈げて)

右足を左足に揃えたと同時に両踵をあげる

|
|

両踵をおろす

そのまま静止

(半拍休)
さ
き
|

鈴は定位置、撞木にて右上方を

右足右斜横に一步出す(体重をかける)

掌を上にして指す(目を注ぐ)

だ
た
|

撞木を左手上肘にのせて左方を見る

左足を右足前に交差する様に一步右に

出して両膝をまげる

ば
|

前の動作を繰り返す

前の動作を繰り返す

|
|
|

(休)

鈴、撞木は正規に構え駒の爪を一つ打つ

右足右斜後に一步出す(「さきだた」と同じ動作)

お
く
る

撞木を正規の位置に戻す

左足を右足に揃え両踵を上げる

鈴を一つ振り鳴らす

両踵を下す

る
|

正規の構え

そのまま静止

ひ
と
を

鈴、撞木は前の動作と同じ

左足一步出し

右足を左足に揃え両踵をあげる

両踵をおろす

そのまま静止

歌	手	足
(半拍休) ま	鈴、撞木は前の動作と同じ	「おくるる」の動作を繰り返す
ち		
や		
せ		
ん	鈴、撞木は前の動作と同じ	「ひとを」の動作を繰り返して
｜		元の位置で斜左前を向く
｜		
は		
な	鈴、撞木は休息の作法の変形	左足一歩左斜前に踏み出し
｜	(撞木をもった左手掌を上に向けて鈴銅をのせ	右足からスリ足で左斜前に
の	合掌よりやや高め正面に保持する)	二呼間進み
うて	撞木は右腰にとり、左手斜左上方に出し	両足揃えて止る
な	鈴を、一回	左足一歩前に出し
｜	二回	体重をかけ
の	三回 鳴らす	左上方を凝視する
は		右向きとなる(右足一歩右のまま)
な	鈴、撞木は休息の作法にて両手で頂くように	右足に体重をかけツマ先で踏む
｜		左足から右方へ二呼間
うて		スリ足で進み
な		足を揃えて止る
の	駒の爪を撞木にて 一回	右方向を向いて立ったままにて
｜	二回	
｜	三回打つ	
な	撞木を正規の位置にもどす	

歌	手	足
か	鈴、撞木は休息の作法をとる	右足一步踏み
― ば		右廻りで左足からスリ足で
の こ		正面向きとなる(二呼間)
― し		(なるべく最初の位置)正面に足揃えて止る
て		静かに座り終る
―		
―	両手同時に鈴と撞木をおき	
―	左手で撞木をおさえ	
―	右手で房を伸し	
―		
(休)	静かに合掌して、低頭し終る	
(休)		

ポイント注意

【さきーだた】 撞木の第一打(が遅れないように)。「さきだたば」の「さ」の半拍前に打ちます。

【さきーだた】 撞木の扱い方。弧を描く様に右手を伸ばし、そして、また、弧を描く様に上肘にのせます。

【おくるる】 足の運び。

1. 右足を踏み出し
2. 揃えて踵をあげ
3. 踵をおろす